

2013年秋号

仙台市

農政だより



発行 仙台市経済局農林部(農政企画課、東部農業復興室、農業振興課、農林土木課)
〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1 電話 022-214-8265(農政企画課) FAX 022-214-8338
ホームページ http://www.city.sendai.jp/business/d/keizai_03.html
Eメール kei008110@city.sendai.jp(農政企画課)

仙台東地区ほ場整備事業の起工式が 開催されました

震災による津波で被災した、高砂・七郷・六郷の仙台東地区では、1,400haの農地で復旧工事が完了、営農を再開した農地では、今秋の収穫も終えたところです。残りの400haの被災農地についても来春の完了を目指して、国による除塩・復旧工事が行われています。



営農再開した農地(平成25年9月)

また、このような農地復旧事業とあわせ、東北農政局を主体として、ほ場整備事業「国営仙台東土地改良事業」を進めています。ほ場整備事業は、農地の大区画化や

農業用用水路のパイプライン化等の工事を行うことにより、農地の利用集積や農業生産性の向上を目指すものです。6月に事業計画が確定した本事業は、9月末に若林区六郷の井土地区で工事着手となったため、10月25日(金)に起工式が仙台市農業園芸センターで開催されました。



緞入れの様子

式典には、地元代表者の皆様をはじめ国等の関係者約150名が出席し、緞入れ式を行いました。

市長からは「多くの方々の方々の努力の上にこの事業が成っていることを地元自治体として忘れることなく、皆様への心からの感謝とともに、私たちも引き続き汗を流していきたい。」と祝辞があり、工事の着手を祝いました。

今後、他の地区についても、工事計画や換地計画原案等の合意形成が図られたところから順次工事に入っていきます。

事業概要

○地区面積 2,244 ha

(農地、道路・水路含む)

○主要工事

区画整理 1,979 ha

末端用水路 156.9 km

揚水機 12ヶ所

末端排水路 135.2 km

暗渠排水 1,593 ha

○工期(予定)

平成24年度～平成28年度

【東部農業復興室復興支援係

214・7327】

奥山市長が農業視察を行いました

9月28日(土)、東部地区の農業復興状況を確認するため、奥山市長が農業視察を行いました。

はじめに、今年度営農を再開した若林区井土地区において、農事組合法人井土生産組合の稲の収穫作業を視察しました。津波被災の影響だけでなく台風の影響も心配されましたが、今年並みかそれ以上の収量が期待されるものと



導入した機械を確認

ことで、市長も安堵していました。組合長の鈴木さんは、今年の経験を来年以降の作付けに活かしていきたいと話されていました。

続いて、国営仙台東土地改良事業の最初の地区として、9月末に工事に着手した井土

地区のほ場整備工事計画につ



今泉希望生産組合の皆さんと

いて東北農政局から説明を受けました。

最後に、同区今泉の今泉希望生産組合のハウスとレタス移植機での作業を視察しました。組合員の皆さんからは、津波の影響で土づくりなど難しいこともあるが、ベテランの経験や知識を共有し、若手の新しい考えも取り入れながら、力を合わせて頑張っているとのことをお話を伺いました。

市長からは、「甚大な被害があったこの地区で、農業を再開できるまでに皆様がされてきた努力に心から感謝するとともに、今後さらにすばらしい農業地帯として復興していくよう取り組んでいきます。」との話がありました。

【農政企画課企画調整係

214・8265】

財団法人仙台市農業園芸振興協会 解散のお知らせ

財団法人仙台市農業園芸振興協会は、都市型農業の推進と発展を図り、さらには農業を基盤とする文化にまでわたる多様な事業を通して、仙台市の農業振興と市民の園芸に対する意識の高揚に寄与することを目的に、平成元年3月に設立されました。同年6月には農業園芸センターが開園し、今日まで多様な事業を各種展開してその発展と健全な運営に努めてまいりました。多くの皆様に利用していただき、一定の役割を果たせたのではないかと自負しております。

今般、農業園芸センターは東日本大震災の被害を受け、復興に向けた再整備基本方針が定まり、変革期を迎えました。当財団は、その取り組みについて誠心誠意検討した結果、当初の目的は果たせたものと考え、平成25年11月末日をもって解散することといたしました。

長い間ご支援ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。解散のご挨拶といたします。

財団法人仙台市農業園芸振興協会
理事長 柘澤 慶悦

農業園芸センター12月以降の運営及び再整備について

財団法人仙台市農業園芸振興協会の解散に伴い、12月1日より、農業園芸センターの施設管理を民間企業に委託します。なお、農業関係の講座やイベント等は、3月末まで休止します。

今後、農業の支援や交流の拠点として、センターの再整備を行います。仙台市収穫まつり(11月16・17日)にて、将来像の概要を展示し、アンケートを実施する予定です(場所:センター展示室)。皆様のご協力をお願いいたします。

【東部農業復興室
農と食のプロジェクト推進係

214・7329】

生産技術情報 野菜

近年の施設園芸では、原油価格の高騰や資材の価格上昇により、一層のきめ細かな省エネルギー対策が必要です。対策の一つとして、被覆資材を有効に利用しましょう。光の透過率、保温性、耐久性などが異なる多くの種類があるので、用途、栽培作物、被覆期間などに応じた資材の選択や組み合わせが大切です。

○熱損失について

被覆材を通過する熱量を貫流熱といい、施設からの熱損失全体の60～100%と最も大きな割合を占めます。他に隙間や換気による損失分が20%程度、地表面からの損失分が20%程度といわれています。貫流熱損失の抑制には、二層カーテンなど被覆資材の枚数を増やしたり、保温率の高い資材を使用します。ただし、資材が厚くなっても耐久性が増すだけで保温性は変わらない場合があるので注意が必要です。隙間などによる熱損失には、カーテンや外装

フィルムの隙間を塞ぐことによつて気密性を高めます。施設内外の温度差が大きくなるほど地表面からの熱損失も大きくなるので、施設内の地面に十分太陽が当たるように心がけます。

○保温資材について

保温資材には多種多様なものがありますが、これは被覆資材の利用場面や目的が多様化していることを反映しています。外界と遮断して保温する外張り資材は、表1に示した通り、保温性、耐用年数、価格が異なるため栽培作物や経営面から選びます。多層被覆により保温性の向上と遮光を目的とする内張り資材は、表2を参考に保温対策します。一般的に取扱いが容易で安価なポリエチレンフィルム（農ポリ）や塩化ビニルフィルム（農ビ）などの透明フィルム（二層、透明フィルムと保温効果が高い不織布や断熱性が高い反射資材などが有効です。その場合水滴落下を防ぐために透明フィルムを上層に用います。また、二層カーテンの場合断熱性の高い資材を外層に用いるのが一般

的です。カーテンの間隔は1cm以上取りますが、広すぎると中で対流が生じ被覆資材同士が密着して保温効果が低下するので、現実的には5～15cm程度の間隔が良いです。また、隙間が大きいと熱損失の原因となりますのでつなぎ目や重ね目をしっかりと塞ぎます。多層カーテンにするほど保温効果は高くなりますが、透光性が低下したり、湿度が上がりやすくなるので注意が必要です。地表面からの熱損失を防ぐ資材としては、直接被覆して地温の調整をするマルチング資材の利用があります。冬季の施設内地温上昇効果と地温保温効果は、透明、黒、グリーン、シルバーの順に光を通す資材ほど高いですが、雑草が生えやす

資材	特性
ガラス	透光性・保温性が高く、半永久的に使用できる
硬質板	ガラス繊維強化ポリエステル板 ガラス繊維強化アクリル板 アクリル樹脂板
硬質フィルム	ポリエステル硬質フィルム
軟質フィルム	塩化ビニルフィルム（農ビ） ポリエチレンフィルム（農ポリ）

表1 主な外張り資材と特性

資材名	保温効果
ポリエチレンフィルム（農ポリ）	100%
ポリエチレンフィルム（農ポリ）+ 不織布	129%
ポリエチレンフィルム（農ポリ）+ アルミ割布	143%
塩化ビニルフィルム（農ビ）+ 不織布	143%
塩化ビニルフィルム（農ビ）+ アルミ割布	157%
アルミ蒸着フィルム + ポリエチレンフィルム（農ポリ）	186%

表2 二層カーテンの組み合わせと保温効果

い欠点もあるので栽培にあつたマルチを活用します。最後に保温対策を徹底するほど施設内の気密性が高まり、時期によっては高温障害や過湿による病害虫の発生も懸念されます。最高最低温度計を設置して夜間を含めた温度管理が大切です。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

生産技術情報 花き

直売所向け切り花で品質の良い花を適期に収穫できる技術を紹介いたします。

○新てっぽうゆり

ユリ科で「たかさごゆり」と「てっぽうゆり」の交雑種です。実生では1年で開花し、球根類の中では種苗費が安価で、切り花の終わった切り下球を掘りあげ秋植えする促成栽培が出来ます。品種には花の上向き種の「かつぎ」(中生)、「さやか」(晩生)、「雷山シリーズ」(極早生)晩生の大輪系)、開花期がよく揃うF1「オーガスタ」(中生)などがあります。栽培はハウスで行い、播種は12月中下旬で1a当たり約4,000粒必要です。128×200穴のセルトレイに播き薄く覆土し、ポリトンネルを密閉状態に被覆して乾燥防止と保温に努めます。18〜20℃で、約3週間前後で発芽します。発芽揃期の本葉1〜2枚の

頃からトンネルの開閉による喚気を行い、昼間15℃前後の低温で育苗します。定植時期が近づいたら灌水を控えるために苗を硬く育てます。定植は本葉4〜5枚で草丈が10cm位の苗を選びます。この時、抽台を始めた苗(節間が伸びて茎が見えるもの)や徒長した苗は除きます。基肥は1a当たり成分量でN1.5kg、P2.5kg、K1.5kgを施用します。幅120cm、通路60cm、高さ20cmの床に条間10cm、株間15cmとします。乾燥に弱いのでマルチ栽培し、灌水は着蕾するまで十分に行います。蕾が見えてきたら控えるにして花茎を硬くします。倒伏防止のフラワーネットは30cm位で1段目を張り、生育に応じて引き上げます。着蕾を始めると茎が曲がりやすいので60cm位に伸びたら2段目のネットを張るのが望ましいです。病害では、多湿条件によりユリ類に最も多い葉枯病の発生が助長されます。また、害虫はアブラムシ類の予防に努めます。蕾の長さが15cm前後、緑色が残る状態で収穫します。

○ヒペリカム

オトギリソウ科で、鮮やかな色のかわいらしい実をつける北米、西欧原産の花です。「フレアーシリーズ」「マジカルシリーズ」など多数の品種があり実の色も茶、赤、ピンク、白、黄など様々です。多くの品種が種苗登録されているので苗を購入するか、種苗登録のない品種は挿し木で増殖します。根腐れをおこしやすいので定植は水はけが良く耕土の深いほ場を選びます。ただし、乾燥に弱いので注意が必要です。また、日照条件が悪いと実付きや実の色が悪くなるので日当たりの良いほ場を選びます。苗は耐寒性がありますが活着前に低温に遭うと枯死する場合があります。1a当たり堆肥200kg、N、P、Kを各成分量で1〜2kgずつ施用します。土壌pHは5.5〜6を目標にします。幅90cm、通路60cm、株間60〜80cmの1条植えとし、地際部より10cm程度深植えします。定植時に十分灌水し、乾燥防止・雑草防除のため黒マルチ・敷きわらをします。風の強いほ

場ではフラワーネットを1段張ります。1年目は株養成とし基本的に収穫は行いません。翌年萌芽直後に不良枝や枯れ枝を整理しながら、前年枝を5cm残して台刈りします。2年日以降は春先に1a当たりN、P、Kを成分量で0.5〜1kgずつ施用します。3年日以降は萌芽が揃う5月頃に1株当たり15〜25本を目安に芽整理を行います。病害ではさび病、褐紋病など、害虫ではアブラムシ類、ヨトウムシ類、マメコガネなどに注意します。1番花の実が下部まで着色した段階で収穫します。時期が早すぎると若い枝が萎れやすく、実が小さく着色不良となり、遅すぎると頂果が退色、褐変します。切りすぎると株が枯れることがあるので株全体の半分程度の本数を収穫し、基部は2cmほど残して切り枝とします。収穫後は早めに水に入れて、調製結束後は1晩水揚げして出荷します。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

仙台市からのお知らせ

6次産業化を担う人材の育成講座を実施します

経営感覚の育成や、マーケティングの考え方等を身につけるための連続講座を実施します。講座は今年から年度内にかけて月2・3回程度行う予定です。今の農業経営をさらにステップアップさせたい方、6次産業化の構想がある方など、ビジネスとして農業経営を目指す方は是非ご参加ください。

詳細については後日、J A 仙台等への募集案内の設置等を通じてお知らせします。受講を希望される方は、左記までご連絡ください。

【農業振興課農商工連携推進室】
214・8266

先進地で研修する場合に補助します

新技術導入（水耕栽培・IT技術）により、新たな技術等の取得が必要な場合や、加工等の

6次産業化を行う場合に必要なノウハウについて、先進地等で一定期間研修を行う場合、費用の一部を補助します。

◆対象 農業生産法人又は認定農業者等で津波被災農業者

◆補助内容 研修にかかる経費（受講料、宿泊費、交通費等）の1/2以内。視察研修や海外研修は対象外

詳しくは、左記までご連絡ください。

【農業振興課農商工連携推進室】
214・8266

経営能力向上のための研修等の費用を補助します

農業経営についての研修や経営診断を受ける場合の経費を補助します。

◆補助額 上限3万円/件

◆補助回数 研修は最大5件まで、経営診断は1件

◆対象者 経営再開マスタープランに位置づけられた担い手及びその構成員

◆対象となる研修等 ①有料の研修等で、内容・日時等が公表されていること②対象者の

今後の農業経営に必要で効果を有するものであること（交通費・宿泊費等は除きます。）希望される方は左記までご連絡ください。

【農業振興課生産振興係】
214・8335

複式簿記(基礎)講習会開催

初めての方にもわかりやすい複式簿記(基礎)講習会を開催します。

◆日時 12月2日(月)～4日(水) 13時～16時

※3日間通しでの受講となります。

◆会場 J A 仙台本店3階第2会議室

◆定員 20名

◆講師 吉田徹税理士行政書士 事務所 代表 吉田 徹 氏

◆締切 11月26日(火) 参加を希望される方は左記までご連絡ください。

【農業委員会事務局事務課振興係】
214・4353

特区制度を活用できます

仙台市東部地域の復興産業集

積区域内において、農業やその関連事業を行う事業者は、「農と食のフロンティア推進特区」の指定を受けることにより、税制上の特例措置を受けられます。

施設を新たに取得する場合、不動産取得税や固定資産税（5年間）が免除になります。さらに、減価償却額の増額または所得税・法人税の控除もできます。ぜひご利用ください。

【東部農業復興室】

農と食のプロジェクト推進係
214・7329

日本政策金融公庫からのお知らせ

日本政策金融公庫は、6次産業化（農林漁業と2次・3次産業との融合・連携）に取り組む農林漁業者の皆様に対する設備資金や長期運転資金のご融資を通じて、農林水産物の付加価値向上を積極的に支援しています。

詳しくはお近くの支店、または左記までご連絡ください。

【日本政策金融公庫 事業資金相談ダイヤル】

0120・154・505

農地集積に協力する方に支援金を交付します

所有する農地を新たにJAに白紙委任(※)した農家等に対して支援金を交付します。

※6年以上の利用権設定又は特定農作業受委託契約をすることについて、相手方を指定せず

に10年以上の委任をすること。
◆対象者 ①離農する方②水稲などの農業部門を減らす経営転換者等③津波による離農者への農地貸付者等

◆交付額

- 50a以下……………30万円
- 50a超2ha以下…50万円
- 2ha超……………70万円

◆交付要件 農地の出し手・受け手ともに地域のマスタープランに掲載後、該当農地を白紙委任する必要があります。

申請を希望される方は、11月29日(金)までに左記までご連絡ください。

【農業振興課生産振興係

214・8335】

【東部農業復興室事業調整係

214・7328】

利用権設定(農地の貸借)の申込みについて

農地を貸す方、借りる方の新規・更新の申込みを受け付けます。

ご希望の方は、農業委員会にある申込書類に必要事項を記入の上、期限までにお申込みください。

農地所有者の方は、固定資産税課税明細書の写しが必要で

◆要件 市街化区域以外の農地で、契約期間3年以上(期間満了時の離作料不要)

◆締切

- ①平成26年4月1日設定
平成25年12月12日(木)
- ②平成26年4月15日設定
平成26年1月15日(水)

※JA仙台でも利用権設定を行うことができます。

【農業委員会事務局事務課農地係

214・4340】

被災農地の賃貸借等に補助金を交付します

津波で被災した地域のうち、

平成26年に作付可能となる農地で、新たに賃貸借契約や農作業

受委託契約を行う場合に市独自の補助金を交付します。左表の条件に該当し、交付を希望される方は平成26年1月15日(水)まで左記へご相談ください。なお、農作業受委託契約の方は1月31日(金)までに契約書の写しを提出してください(この場合、市税確認等の書類も必要です)。

事業名	農地利用集積促進事業
補助対象者	①貸し手(委託者) ②借り手(受託者) - 認定農業者、農業生産組織 ※市税を滞納していない方 ※JA仙台に申請・請求・受領の手続きを委任していただきます
助成内容	貸し手・借り手両者に対象農地10aあたり上限1万円(初年度のみ)
交付条件	①被災後復旧した農地での新規の契約 ②契約期間が3年以上 ③貸し手・借り手とも地域の農地の集約化等に協力すること ④国等の同様の補助金を受けていない方

【東部農業復興室復興支援係

214・7327】

【JA仙台中央営農センター

289・2914】

耕作放棄地の発生防止に努め、大切な農地を守りましょう

耕作放棄地は、病害虫や鳥獣被害発生の温床になりやすく、また、産業廃棄物等の不法投棄場所になる危険があるなど、周辺農地にも悪影響を及ぼします。草刈り等を行うなどして、農地の保全に努めましょう。

耕作放棄地の再生利用などに関して、国の支援制度も含めてご相談を承っていますので、お気軽にご連絡ください。

【農政企画課農地保全係

214・8334】

東部農業の復興記録を制作します

仙台市では、東部地域の農業の被災状況や、復旧・復興に向けた取り組みを後世に残すため、記録映像・記録誌の制作を進めています。農業者の皆様にも、取材及び撮影を依頼することがございます。ご協力をお願いいたします。

【東部農業復興室復興支援係

214・7327】